

テモテへの手紙 二 1章15節～2章7節 あなたも知っているように、アジア州の人々は皆、わたしから離れ去りました。その中にはフィゲロとヘルモゲネスがいます。どうか、主がオネシフォロの家族を憐れんでくださいますように。彼は、わたしをしばしば励まし、わたしが囚人の身であることを恥とも思わず、ローマに着くとわたしを熱心に探し、見つけ出してくれたのです。どうか、主がかの日に、主のもとで彼に憐れみを授けてくださいますように。彼がエフェソでどれほどわたしに仕えてくれたか、あなたがだれよりもよく知っています。

そこで、わたしの子よ、あなたはキリスト・イエスにおける恵みによって強くなりなさい。そして、多くの証人の前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい。キリスト・イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい。兵役に服している者は生計を立てるための仕事に煩わされず、自分を召集した者の気に入ろうとします。また、競技に参加する者は、規則に従って競技をしないならば、栄冠を受けることができません。労苦している農夫こそ、最初に収穫の分け前にあずかるべきです。わたしの言うことをよく考えてみなさい。主は、あなたがすべてのことを理解できるようにしてくださるからです。

「著者」は、アジア州の信徒が皆パウロから離れ去ったと書いている。その中でもフィゲロ、ヘルモゲネスの名前をあげている。パウロが逮捕された時、アジア州から来た人々は、助けてくれなかったことを指すのか。あるいは、ローマでパウロが投獄されていた時、援助しなかったことを指すのか。いずれにしても、彼らはパウロを見放し、離れ去った。一方、オネシフォロはローマに着くと、熱心に私を探し見つけ出し、しばしば牢に来て、囚人である私を恥とは思わず、励ましてくれた。彼の家族を憐れんでくださり、終末の時、彼に「神の国」に入る恵みが与えられるように。私がエフェソにいた時、彼がどれほど仕えてくれたかは、誰もが知っていよう。これらの記述の史的事実は分からない。

「著者」は、「そこで、わたしの子よ」とテモテに親しく呼びかけ、「あなたはキリスト・イエスにおける恵みによって強くなりなさい」と言う。パウロから聞いたことを、他の人々にも教えることのできる忠実な人たちに教会の群を委ねなさいと指示している。そして、「キリスト・イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい」と励ます。福音宣教に携わることは、宣教に命をかける兵士になることであり、パウロと共に苦しみを忍ぶ戦友になることである。兵役に服している者は生計を立てるための仕事に煩わされず、自分を召集した者に従うのと同じく、福音宣教に召された兵士は生計に煩わされることなく、招集した神に忠実である。また、競技に参加する者は規則に従って競技をして、栄冠を受けるように、福音宣教の競技に参加した者は御言葉に従うことによって、神からの栄冠を受けることができる。そして、労苦している農夫こそ、最初に収穫の分け前にあずかるべきであるように、福音宣教に労苦した者は、豊かな宣教の実りに与ることができる。「わたしの言うことをよく考えてみなさい。主は、あなたがすべてのことを理解できるようにしてくださるからです。」テモテが「著者」の勧めを理解できるように、神がしてくださると信頼している。パウロの宣教から離れて行く人々がいる中、テモテに対し、福音宣教に身を捨てて、努力をするように諭している。